令和7年度

政策1　災害レジリエンスNo.1の実現

県道高崎駒形線（上大類町工区）電線共同溝事業

よくわかる公共事業

事業継続中

どのような未来を目指すための事業か

災害時にも機能する強靭な道路メットワークを構築するため

電線を地中化して電柱を撤去します

地元の声

・災害時に電柱が道路を塞がないようにしてほしい（地元住民）
・すっきりした景観を作ってほしい（高崎市内通勤者）

事業の概要

■ 事業箇所：高崎市上大類町
■ 事業内容：電線共同溝　延長1,300m
■ 事業期間：平成30年度～

■ 現在の交通量：38,777台/日（自動車）（R3年度）
90人/12時間（歩行者）
387台/12時間（自転車）

事業前

◆電柱があるため、災害時に電柱が倒壊し、 道路を寸断するおそれがあります。

事業前の状況

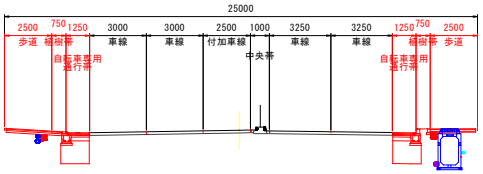
事業後

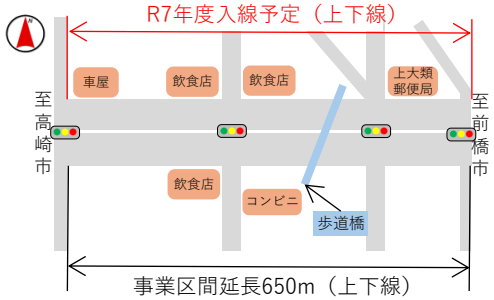
◆道路上の電柱がなくなり、災害時の安全な通行が確保されます。

事業後のイメージ

成果を示す項目	実施前	実施後（目標）
防災拠点と交通拠点間（高崎行政県税事務所～高崎IC）の無電柱化率	57%	70%
電柱倒壊のおそれ	あり	なし

事業の進捗状況（令和7年3月末現在）





今、何をしているか

引込・連系管の敷設工事が完了し、引込・連系管への入線工事を実施しています。

事業のすすみ具合

事業開始 ●――――――――――――――――●・・・